

# アニメーション制作の 「持続可能性」を支える基盤整備を

株式会社プロダクション・アイジー/株式会社ウィットスタジオ  
代表取締役 和田丈嗣

# 世界に誇る日本のアニメーションの未来は、 制作会社、制作現場の「資金繰り」と「人材育成」の 基盤整備にかかっています

---

## ①新人育成期間を埋める支援

### 現状：

アニメーターの実務レベルと収入がバランスする状況になるまでの育成には数年を要し、フリーランスの場合はその期間の低賃金が離職の主因。  
制作会社所属の場合も、収入と給与の差を会社が実質的に負担する構造となり経営を圧迫。

### 課題：

育成や研修補助が著しく不足している。

### 提案：

#### IT分野と同等レベルの「新人育成補助金」の創設

OJT期間中の人件費、指導コストを支援する補助  
クリエイティブを支える最小単位である「クリエイター個人のスキルアップ」を国家戦略としてバックアップし、  
離職率を低下させる。

## ②制作長期化とインフレへの耐性強化（予備費の制度化）

現状：

制作期間の長期化（2～5年）が常態化。

課題：

契約時の予算では、数年後のインフレや固定費上昇を吸収できず、制作会社が赤字を被る構造。

提案：

**総製作費の10%を「変動対応予備費」として標準化**

例えば一例としてこのような、契約締結から納品までの「物価上昇」「最低賃金増による固定費増」など外部要因の変化による実制作費増を、制作予算上に組み込むスキームの確立。

映像制作現場だけに負担を強くない、透明性の高いコスト調整メカニズムの構築。

---

## ③制作期間中の資金ショートを防ぐファイナンス支援

現状：

納品まで多額のキャッシュアウトが先行し、中小制作会社の運転資金が枯渇。

課題：

銀行融資が通りにくい業界構造。

提案：

**運転資金に対する政府系金融・保証制度の拡充**

製作契約書等を担保とした融資の円滑化。

官民一体となったコンテンツ特化型のファイナンス・セーフティネットの構築。